

慶應義塾のこの1年

塾員の皆さまにもお送りしている「社中特別号」にあたり、2022年にあった主な義塾のニュースをまとめました。各ニュースの詳細やその他の最新のニュースは、義塾Webサイト (<https://www.keio.ac.jp/>) で確認できますので、ご参照ください。

ウクライナ学生歓迎懇談会の実施

ウクライナの学生の学びの権利を守るため、慶應義塾は「ウクライナ避難学生学びの継続支援特別プログラム」を実施し、学びの場を提供すると発表しました。8月に対象学生が決定し、9月22日に無事に訪問留学生4名を迎え入れ、三田キャンパスの図書館旧館記念室で懇談会が行われました。懇談会には、伊藤塾長のほか、受け入れる研究科の委員長等も出席し、日本語を交えながらも4名の学生との交流を図りました。ウクライナ情勢を受け、今後も避難学生へのご支援を広く募るなど、各種支援活動に取り組んでいきます。



「慶應義塾SDGs会議—2022塾生会議」を実施

慶應義塾SDGsの一環として、全学部から選抜された塾生がSDGsを実現するための慶應義塾のビジョン・目標・ターゲットを考える、「2022塾生会議」が行われました。プログラムの前半（6月～7月）は、専門家からSDGsをめぐる世界と日本の現状について学び、後半（10月～12月）は、主に分科会に分かれてディスカッションを行いました。参加した塾生は、SDGs実現に向けて慶應義塾のあるべき姿について意見をまとめ、2023年1月11日に塾長へ提言します。



湘南藤沢中等部・高等部 創立30年記念式典

4月25日、湘南藤沢中等部・高等部創立30年記念式典が執り行われました。式典は、伊藤塾長をはじめ、塾内外の多くの来賓の方々に出席いただき、ハイブリッド形式で行われました。



慶應義塾大学病院 グランドオープン

慶應義塾大学医学部開設100年を記念する事業として、2018年に慶應義塾大学病院1号館が開院しました。そして2022年5月16日には、大学病院の新しい正面玄関が完成。10年の期間を経てついにすべての工事が完了し、グランドオープンを迎えました。



大学塾生家族地域連絡会を 3年ぶりに全国9都市で開催

首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）以外に在任の塾生のご家族、保証人のもとに教職員が直接出向き、大学の近況および塾生の学業・学生生活等について説明する「大学塾生家族地域連絡会」が3年ぶりに実施されました。今回は、感染防止対策を講じた上で、札幌、仙台、宇都宮、金沢、名古屋、大阪、広島、高松、福岡の9都市で開催されました。



「ガクモンノススメ」 プロジェクト

『学問のすゝめ』初編刊行150年を記念し、塾生・受験生をはじめとする多くの方々を読んでいただくことを目的として「ガクモンノススメ」プロジェクトを始動しました。動画では、義塾にゆかりのあるゲストを招き、伊藤塾長と対談、この後も公開が続きます。



特設サイトはこちら



ガクモンノススメ

「学問のすゝめ」150周年プロジェクト

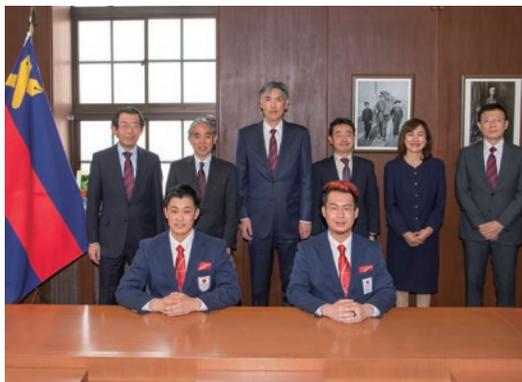
2022年学園祭

2022年の学園祭は各学園祭実行委員会の判断の下、それぞれ感染対策を講じた上で対面・オンライン形式で開催されました。七夕祭、矢上祭と三田祭は、いずれも来場者を制限した上で、ステージ公演のほか、模擬店等の企画も復活し、従来の学園祭期間の賑わいが戻りました。なお、矢上祭は、2019年に台風の影響もあり、実質4年ぶりの対面での開催が実現しました。芝共葉祭や四谷祭は、前年に引き続き、2022年もオンラインにて開催されました。



北京2022オリンピック・パラリンピックと慶應義塾

北京2022オリンピック・パラリンピック冬季大会に2名の塾生、塾員が出場しました。3月31日には、選手の健闘をたたえるための塾長招待会が開催されました。



プロ野球ドラフト会議で、体育会野球部2名の指名

10月20日、プロ野球ドラフト会議で萩尾匡也君（環境情報学部）が読売ジャイアンツより2位指名、橋本達弥君（環境情報学部）が横浜DeNAベイスターズより5位指名を受けました。



中等部創立75周年記念行事

6月20日に、日吉記念館において中等部創立75周年記念講演会が行われました。記念講演会では、中等部の卒業生をはじめ、義塾にゆかりのある方々が集いました。また、11月12日に、三田キャンパス西校舎ホールにて、同記念式典が執り行われました。



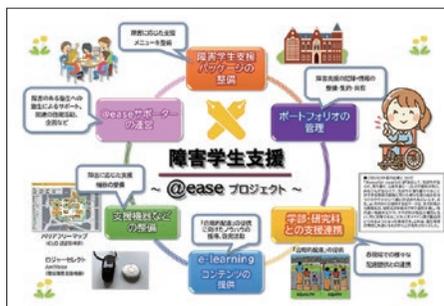
中等部創立75周年記念講演会（日吉記念館）



中等部創立75周年記念式典（三田キャンパス西校舎ホール）

「障害学生支援室」の開設と「@easeプロジェクト」の始動

協生環境推進室では、障害のある学生の修学機会を保障し、その学びを支援するために「障害学生支援室」を新たに開設しました。併せて、誰もが支援の一翼を担うという考え方に基づき「@easeプロジェクト」も活動を開始しました。このプロジェクトの開始に伴い、障害のある学生への支援や、バリアフリーに関するさまざまな活動を行う「@easeサポーター」を学部生、大学院生から募り、50名が必要な研修を受け、活動を開始しています。引き続き障害のある学生の支援のためにキャンパスを超えた横断的なサポート体制を整備・構築していきます。



「@easeプロジェクト」の取り組み

協生環境推進室「バリアフリー（障害学生支援）」Webサイト

URL
<https://www.diversity.keio.ac.jp/bf/index.html>



高齢者の当事者体験実習の様子



専用ソフトを使用したPCテイクの練習の様子